

Macour Time Machine

マクール タイムマシン

今垣光太郎が年間SGV2 歴史を変えた山川美由紀

1999年

1998年主な出来事

- iモードサービスがスタート
- カリスマ美容師、厚底サンダル、
ガングロ・ヤマンバギャルが話題に
- 「GLAY」屋外ライブで20万人動員
【流行語大賞】ブッチホン(小淵恵三)、
リベンジ(松坂大輔)、雑草魂(上原浩治)

女子レーサーの動きも活発になってきた。鵜飼菜穂子に次ぐ世代

山川美由紀が混合GⅠで優勝

20世紀も末に近づいた99年は、97年と98年に続き、SG初制覇が相次いだ。まずクラシック(総理大臣杯)を今垣光太郎が大外からまくり差し。その後ダービー(全日本選手権)まで、濱村芳宏→大嶋一也→田頭実→山本浩次→山室展弘と6人連続で初優勝。チャレンジャカップを今垣が制してストツプ、最後のグランプリ(賞金王決定戦)は松井繁が勝って締めだが、群雄割拠、感は大いに高まった。今村豊や植木通彦も毎年勝率トップ争いをしていたし、濱野谷憲吾、岡本慎治らもGⅠを勝ちまくっていた。ちなみにこの年のSG8レースのうち、逃げで決まったのは1レースだけ。イン1着率が20%台だったレース場もあり、現在から見ればまさに隔世の感がある。

ダービーまでのSGは全て初制覇

優秀選手表彰

- | | |
|------------|-------|
| 【最優秀選手】 | 松井繁 |
| 【最優秀新人選手】 | 平尾崇典 |
| 【最多勝金獲得選手】 | 松井繁 |
| 【最高勝率選手】 | 植木通彦 |
| 【最多勝利選手】 | 桂林寛 |
| 【優秀女子選手】 | 山川美由紀 |
| 【記者大賞】 | 今垣光太郎 |

暗い話題にも触れておかなければならない。バブル崩壊以降の経

売り上げ下降が深刻に…

としてトップを占めるようになったのは、日高逸子・山川美由紀・谷川里江・寺田千恵・西村めぐみ(本部めぐみ)ら。中でも山川は、2月の四国地区選で優勝。女子選手による男女混合GⅠの優勝は、ボートレース開始後間もない昭和32年の杉本明子(住之江1周年)以来、42年ぶりの快挙ということで大きなニュースとなった。また3月のレディースチャンピオン(当時はGⅡ女子王座決定戦)では、若手の横西奏恵がF2を抱えながら大外から快勝。デビュー初優勝を大金星で飾った。



大外から差して優勝した山川美由紀

戸田のウインビー&ウインク



低迷の影響は大きく、ボートレースの売り上げは92年以降下降続き。そして北海道のボートピア釧路は閉鎖を余儀なくされた。立地に無理があったとはいえ、ボート業界でレース場や舟券発売所の売り上げ不振による閉鎖は初(半田競艇場は台風による施設倒壊が主原因)。業界に震撼を呼んだ。

全国24場キャラクターが誕生

売り上げ不振の一方で、新たな注目を浴びるアイテムが誕生した。それが24場のキャラクターだ。近年デザインがリニューアルされたりするものもあるが、ご当地キャラクターのブームにも乗って人気を集め、オリジナル商品が多数制作されてきた。そのなかでこの年の4月に誕生したのが蒲郡のトトまるだ。デザイナーの藤原まゆみさんが製作し、声優の野沢雅子さんが声をあてると、レース場側の気合いも伝わる。名前は一般公募1万929通の中から選出され、決定。レース場のキャラクターブームの火付け役になったと言われている。



松井繁が3回目のグランプリ制覇! モンスター・野中和夫が引退

2009年

2009年主な出来事

- 野球のWBCで日本が2連覇
- 土日祝日、高速道路1000円
- 衆院選で民主党が圧勝し政権交代
- 裁判員制度スタート
- 【流行語大賞】政権交代(鳩山由紀夫)

3度目のグランプリを勝った松井繁



トップ戦線はもっぱら30代戦士の争いが顕著となった。登番でいえば、3000番台前半VS後半という図式でもあった。

まず前半のクラシックを池田浩二、オールスターを瓜生正義、さらにオーシャンカップで新スタート王・菊地孝平が若松ナイターで快勝。さらにメモリアルで池田が2つ目のV。一方、30代最後を迎える今垣光太郎がランドチャンピオンを制し、同い年の松井繁が待望のダービー初Vで追い上げてきた。常滑のチャレンジカップで

30代前半選手の猛攻をしのぐ

優秀選手表彰

【最優秀選手】	松井繁
【最優秀新人選手】	平山智加
【最多勝金獲得選手】	松井繁
【最高勝率選手】	今垣光太郎
【最多勝利選手】	大嶋一也
【優秀女子選手】	濱村美鹿子
【記者大賞】	松井繁
【特別賞】	加藤峻二 池田浩二

は、原田幸哉↓池田の地元ワンツ。池田が賞金ランキングトップでグランプリへ臨んだ。

そして注目の賞金王決定戦では、40歳を迎えた松井がトップスタートを決め、3コースからの鮮やかな差しを決めて快勝。このレース史上タイの3回目の優勝を飾った。同時に賞金王も確定させて、前年に続く5回目の最優秀選手に選出。これで表彰制度が始まって以降、トップの彦坂郁雄に並んだ。

史上初！女子選手の最優秀新人

SGの上位を30代が独占したが、20代で健闘したのは笠原亮と湯川浩司(ともにSG2優出)ぐらいいだった。さらにその次の世代と期待される新鋭王座決定戦の顔ぶれもやや低調で、この年の優勝戦で後にSG王者に出世したのは新田雄史だけだ。01年に移転したボートレーサー養成所(やまと競艇学校)卒業生の実戦での苦戦が目立ち、登録6年未満という新鋭王座も「曲がり角を迎えた」と感否めなかった。

引退セレモニーを行った野中和夫さん



その一方で、レベルアップが目されてきたのが女子の若手たち。この年、史上初めて最優秀新人に女子の平山智加が選ばれた。

モンスターが水面を去る

この年、長きにわたって艇界を彩ってきた、超大物選手が静かに引退した。モンスターの愛称で親しまれた野中和夫だ。05年に選手会長に就任、4年間務めた後、退任して選手登録も消除。12月に住之江でラストランを行って最後の雄姿を見せてくれた。

まだSGが少なかった時代に17回の史上最多優勝、SG3連覇、76年後期の勝率9・53、オールスターは第1回を含む優勝6回、年間賞金王7回など史上1位の記録を山のように築いた。さらに「ワシは『勝負師』ではなく『勝ち師』や」と語り、1着にこだわる強烈なキャラクターがファンを興奮させた。また選手会長としても、頻繁にレースの現場へ足を運び、ファンの前に出る機会も多かった。艇界に残した足跡はとてつもなく大きい。